第１回準備委員会意見交換における各委員からの意見概要について

【資料３】

2023/9/29

第２回伊賀市美術博物館建設準備委員会

委員名	意見概要
藤田委員長	現在のものをきっちり保存して、後世に伝えていくことは伊賀市として責任重大。現在、俳句人口、俳句を作られる方は数百万と言われている。芭蕉をはじめとする江戸時代の俳句、俳諧についての、知識とか、ご理解が十分でないことから、収集、保存、展示することによって多くの方に知ってもらいたい。芭蕉翁記念館は十分なスペースを確保できない状態であることから、新しい展示室を作って、多くの方に見ていただいて、じっくりと観覧していただきたい。それが新しい施設を作る基本条件である。同時に、伊賀市がこれまでずっと貯めてきたいろんな文化的なものの保存と展示、それから考古学の発掘も大変盛んであることから、一体化したような形の運営、活動ができたらいい。市民の側からの参加、特に若い方に参加してもらい　一緒に、活動、或いは展示物づくりそういう拠点にしたい。現在、伊賀市美術博物館という名称、正式名称として、建設準備を進めているが、この名称のままでいくと芭蕉翁という言葉、俳諧という言葉は一つもない。どういう性質のどういう特徴を持った施設なのか、記念館、美術館なのかが全くわからない。芭蕉を記念するという施設であるということを、うたったような名称を考えていきたい。新しい斬新なアイデアを盛り込んだものを作って将来に向けた新しい顔となるところを作っていきたい。 ※安藤忠夫さんがおつくりになった中之島のこども童話、図書館
四辻委員	新しい美術博物館構想の中心、伊賀市にとって何が大事か　芭蕉、伊賀焼である。しかし地元の人たちには興味があるかわからない。だから、子どもや多くの人にもっと知ってもらいたい。自分たちの自信にも繋がるし、対外的にも自分の地元の良さをＰＲできると思う。伊賀市の文化財と歴史を大切にすることが必要。特に芭蕉や伊賀焼、地域の歴史が重要であり、地元の人々が自信を持てるようにし、他地域からの注目を集める美術博物館を作ることが重要。伊賀市の文化財は他の地域にはないものであり、それを地元の人々や他地域に紹介して経済活性化や文化の深化に繋げるべき。実物の歴史を触れる体験と展示方法の柔軟性も重要であり、また、伝統的な芸能や文化遺産を地域や海外に広めるアプローチも重要である。
井上委員	博物館は愛され、開かれた場であるべきであり、展示の核となるテーマを決定し、それに基づいて博物館資料を増やしていくことが必要。特に芭蕉や伊賀焼などを中心に展示を構築することが重要である。また、地域の文化財の増加状況や学芸員の育成、博物館美術館の健全な運営についても検討していかなければならない。博物館が成果を挙げるためには、学芸員のやりがいや管理体制の見直しが不可欠である。
穂積委員	伊賀市には多くの素晴らしい歴史的資料が集中しており、考古資料、古墳、石仏、仏像などが典型的な存在である。これらを博物館の展示に活かすだけでなく、地域全体の歴史的拠点を作り、各地域の特徴を示す拠点を設けることが重要。例えば、天正伊賀の乱などの歴史的出来事や地域の特徴を拠点ごとに関連付けて展示することで、伊賀の豊かな歴史がわかりやすく伝わる。美術博物館の融合についても、専門性を維持しながら展示を切り分けることで、特定のテーマに特化した展示を実現することが重要。伊賀の特徴を活かし、文化の歴史を魅力的に伝える美術博物館を創出するべき。 ※埼玉県行田市博物館　※日本にある美術博物館：長野県飯田市、愛知県岡崎市・豊橋市、北海道苫小牧市
辻村委員	美術と博物館が一体となった総合ミュージアムの重要性について、館の特徴や軸をわかりやすく伝えるために、キャッチーで簡潔な表現が必要である。将来的な維持や持続性についても、専門的な人材の必要性だけでなく、市民との連携や協力が大切である。尼崎市立歴史博物館の事例として、市民との協力連携がうまくいっているケースであり、美術館と博物館が地域と市民と連携しながら存続するためのアプローチとして参考になる。
福田委員	伊賀市の美術博物館に対して、地域の人々が中心となって行う人づくりとまちづくりが重要。伊賀の土地や文化が持つ特徴を活かして、地域のキラーコンテンツを美術館と博物館として展開し、地域住民が誇りを持って観光客にも魅力を伝えられるようにする場にすべき。また、三重県のエコミュージアムの取り組みに触れ、博物館としての学術的な取り組みも重要。美濃加茂市ミュージアムの事例を挙げ、都市規模が小さくても教育と連携した活動を行い、地域のミュージアムとして高い評価を得ている例を紹介。伊賀市も将来的に美術博物館を作り、地域の特徴を活かした活動を展開することで、成功事例に繋げるべき。
菅谷委員	美術博物館の運営について、観光や収益の観点から、美術博物館を運営する際、観光客を惹きつけるためにはキラーコンテンツが必要。国宝や世界的に有名な作品を展示することで、一定の集客を見込むことができるが、伊賀市の規模では厳しい。歴史博物館の収益面に関しては難しく、特に観光客に対して支出させる難しさ。美術博物館における収益性の観点からの議論と同時に、地域のアートセンター的な機能について、美術博物館が地域住民にアートを身近に感じてもらう場としての役割を果たすべきであり、地域の美術活動や文化の発信・普及に貢献することが重要。また、美術館内でアーカイブス情報室やデジタルネットワークの機能を設け、資料や情報を広く提供することで、地域の歴史や文化を深く理解できる場を作るべき。さらに、美術館の運営において、展覧会のカタログや情報の発信方法を考慮するも必要。展示される作品や企画展のカタログをデジタル化し、ネットワークを通じて広く提供することで、美術館の価値を高める方法を提案。美術博物館の運営において、収蔵・保管・伝承の役割を重視しつつ、展示活動を通じてアートに触れる機会を提供することが重要。また、予算や人的リソースの限られた状況下で、運営内容に優先順位をつけて議論し、諦める必要がある場合もある。

第１回準備委員会意見交換における各委員からの意見概要について

2023/9/29

第２回伊賀市美術博物館建設準備委員会

委員名	意見概要
植田委員	芭蕉翁顕彰会が昭和 34 年に設立され、芭蕉翁を顕彰する目的で芭蕉翁顕彰会が立ち上げられ、その後も施設の整備や運営に尽力してきた。また、平成 10 年から平成 25 年までの間、市長から諮問を受ける形で芭蕉翁記念館の位置づけについて審議が行われた。芭蕉翁記念館に対する位置づけについては議論があるとしつつも、辻村氏の発言に触れ、柿衛文庫のような位置づけへの移行が考えられる。芭蕉翁記念館という名前や固有名詞が残ることが重要、芭蕉翁顕彰会のメンバーの想い。
中村委員	芭蕉翁記念館に対して 15 年から 16 年にわたり検討が行われてきた経緯を振り返り、現市長が美術館・博物館の検討を真剣に進めているという印象。しかし、芭蕉翁の顕彰や忍者に関連する要素と美術館・博物館という異なる性格の施設を一度に結びつけるのは困難であり、それぞれの施設の特性に合った運営を行うべきだ。企画展や展示などの運営管理においては多くの課題があると認識し、長期的な運営における困難性や財政的な課題について言及。そのため、建設だけでなく運営や経営力も重要であり、しっかりとした検討と支援が必要だ。具体的な施設の要素や運営計画の検討には時間と注意が必要であり、委員会の協力を仰ぎ、将来的な実現に向けて提案や支援が必要だ。
長谷委員	市民文化の向上と市民の共感を得ることが重要。新しい美術博物館の取り組みにおいて、強い市民文化の向上が最も重要である。子供から大人まで幅広い世代が賛同し、楽しむことのできる施設を作る必要がある。この視点から、新しくなる図書館との統合や、市民の多様なニーズに応えることが必要である。観光協会の立場からも、忍者のお客さんだけでなく、新しい感性を持つお客さんも大切にする。そして、伊賀焼という地元の伝統産業を子供たちにも誇れるように伝えていきたい。また、かつて存在した伊賀信楽古陶館や、MIHO ミュージアムなどの施設に収蔵されている伊賀焼のコレクションが、感性を高めるために活用されるべき。美術博物館の建設において市民の参加と共感を大切にし、地域の文化や伝統を未来に継承することが重要
笹山委員	普段、ギャラリーや伊賀焼、工芸などを運営する立場にあり、現状を考慮しても、インバウンド（海外からの観光客）を前提に観光資産を考慮するべき。伊賀忍者に限らず、今後の観光を考える際には、伊賀の持つ資産を広く活用するべき。特に、俳句に興味を持ち、若い世代にも伝えていく意欲がある。さらに、海外の観光客にも伊賀の魅力や日本の文化を伝えることが重要である。地域の資産を活かして観光を推進し、伊賀の文化や魅力を広く発信することが必要。
辻本委員	子供からおじいちゃんおばあちゃんまで楽しめる施設の実現。有名な絵画を映像作品として体感してもらう企画展などを通じて、多世代で楽しめる施設が重要。特に、芭蕉の旅の経験を映像で体験したり、句会のグループを受け入れるブースなど。また、全国から訪れる句会の参加者を呼び込むために、文章の読み方を知る講座などのイベントも考えるべきだ。観光施設の魅力を高め、多くの人々が楽しめる場を作り上げる。
友田委員	コンセプトは「子供ファースト」であり、子供たちに刺激を与え、良い思い出を作る場所を提供することを目指す。子供たちが小さい時に訪れる場所は心に残り、大人になっても影響を与える。また、地元の人々と観光客の両方が利用しやすい施設を実現することの難しい。現実的な課題や問題点を考えつつ、子供たちと地域の未来を大切にする姿勢が大変重要となる。

展示

◎キラーコンテンツ

- 伊賀市にとって何が大事か　芭蕉、伊賀焼
- 芭蕉や伊賀焼などを中心に展示を構築
- 芭蕉翁記念館という名前や固有名詞が残ることが重要
- 芭蕉や伊賀焼、地域の歴史が重要であり、地元の人々が自信を持てるようにし、他地域からの注目を集める
- 新しい斬新なアイデアを盛り込んだものを作って将来に向けた新しい顔

◎体験性と柔軟性

- 実物の歴史に触れる体験と展示方法の柔軟性
- 映像作品など新しい取り組み
- 芭蕉の旅の経験を映像で体験

◎伊賀の歴史の拠点

- 市全体の歴史的拠点を作り、地域の特徴を示すことが重要
- 文化の歴史を魅力的に伝える美術博物館

機能・活動内容

◎参加と学び・創造の拠点

・特に若い方に参加してもらい　一緒に、活動、或いは展示物づくりをする
・地域のアートセンター的な機能について、地域住民にアートを身近に感じてもらう場
・市民の参加と共感を大切にし、地域の文化や伝統を未来に継承することが重要

◎情報発信の拠点

・地域住民が誇りを持って観光客にも魅力を伝える場
・デジタルアーカイブやデジタルネットワークの機能を活用する
・インバウンド（海外からの観光客）を前提に観光資産を考慮するべき
・地域の資産を活かして観光を推進し、伊賀の文化や魅力を広く発信する

◎地域や教育との連携

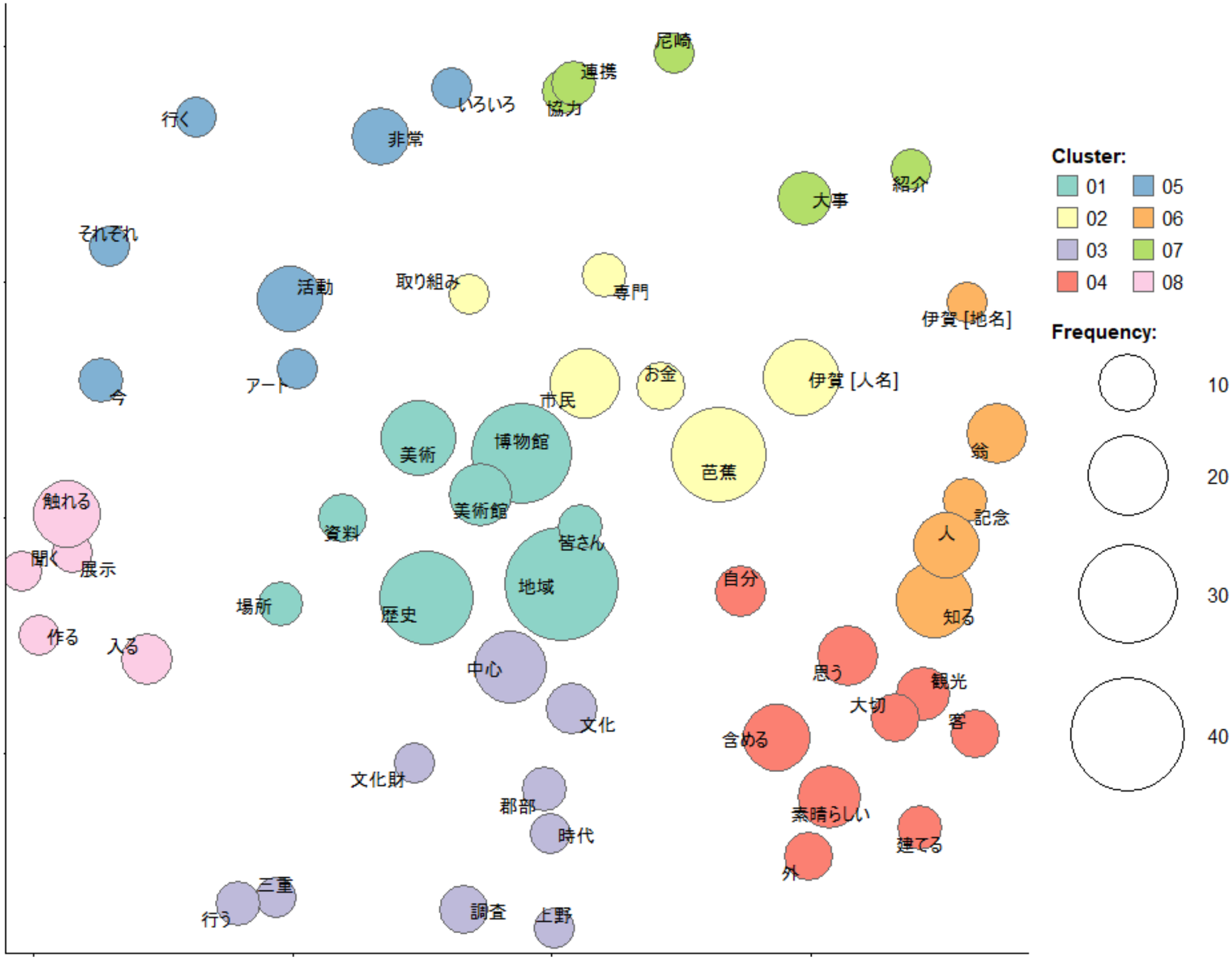
・市民との連携や協力が大切である
・教育と連携した活動

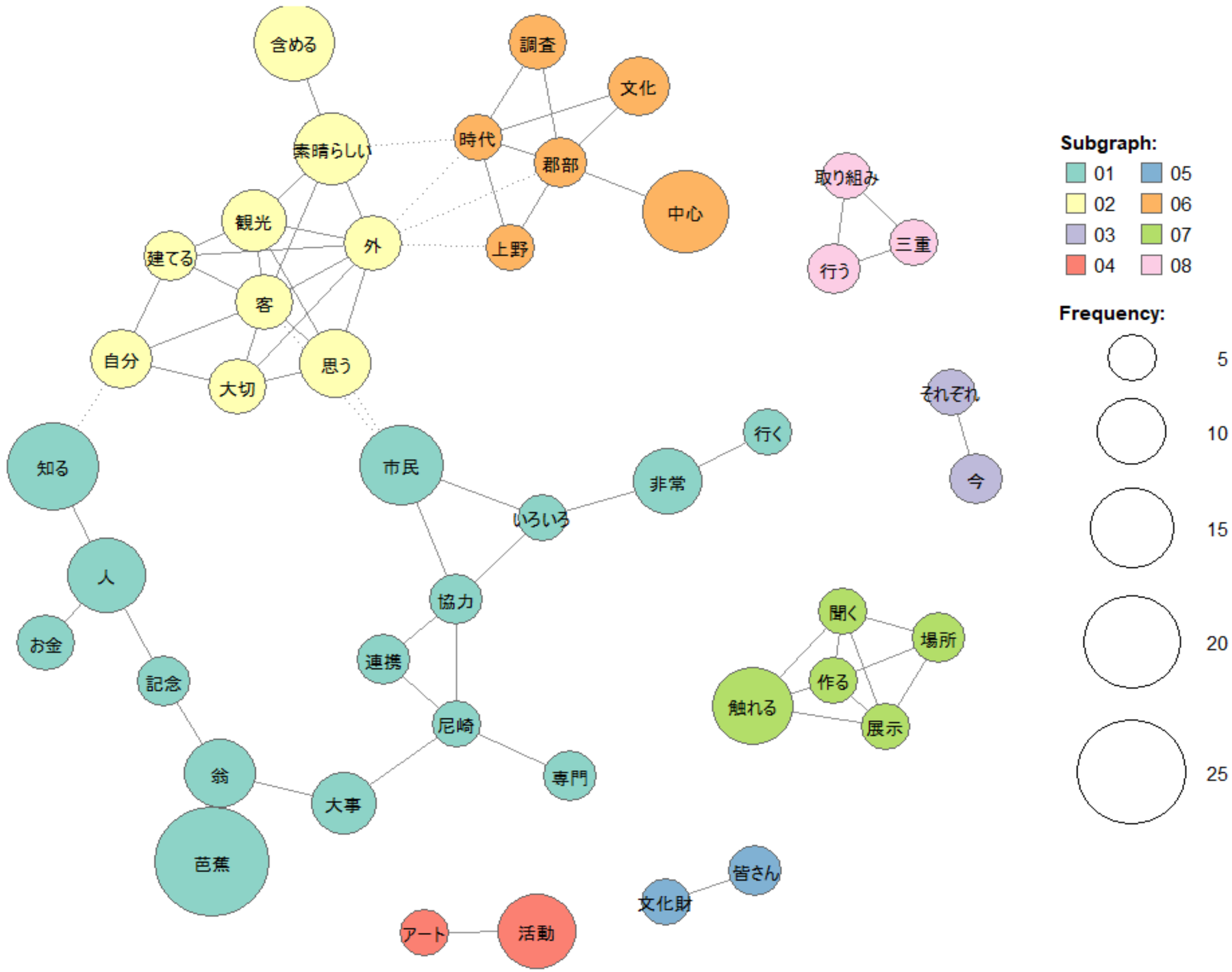
◎未来の子どもたちへ

・伊賀の文化の大事なことを、子どもや多くの人にもっと知ってもらいたい
・子供たちと地域の未来を大切にする姿勢が重要
・子供たちが小さい時に訪れる場所は心に残り、大人になっても影響を与える

運営管理

・芭蕉・博物・美術が一体化したような形の運営、活動
・学芸員がやりがいを持てるような運営、活動
・異なる性格の施設を一度に結びつけるのは困難であり、それぞれの施設の特性に合った運営を行う
・運営や経営力も重要
・総合ミュージアムの重要性について、施設の特徴や軸をわかりやすく伝える


尼崎
連携
いろいろ
協力
行く
非常
紹介
大事
それぞれ
活動
取り組み
専門
伊賀 [地名]
今
アート
お金
伊賀 [人名]
市民
美術
博物館
芭蕉
翁
美術館
記念
人
資料
皆さん
聞く
展示
自分
地域
場所
歴史
知る
作る
入る
思う
中心
観光
大切
客
文化
含める
文化財
郡部
素晴らしい
時代
建てる
外
三重
行う
調査
上野
Cluster:
01
02
03
04
05
06
07
08
Frequency:
10
20
30
40


含める
調査
文化
素晴らしい
時代
郡部
中心
観光
外
上野
建てる
客
自分
思う
大切
取り組み
三重
行う
それぞれ
今
知る
市民
行く
非常
いろいろ
人
協力
お金
連携
記念
尼崎
専門
翁
大事
芭蕉
聞く
場所
作る
触れる
展示
皆さん
文化財
アート
活動
Subgraph:
01
02
03
04
05
06
07
08
Frequency:
5
10
15
20
25